

『経営に役立つヒント』

令和七年九月一日

第二百六十八号

終戦から八十年になる記念の八月十五日に靖國神社に仲間十五人で参拝しました。

NHKの日本武道館での放送に合わせ、正午に拝殿にて国歌斉唱と一分間の黙祷と、天皇陛下のお言葉を拝聴し、総参加者五百名と共に心静かに英霊に感謝の思いと今後の決意を捧げ、御霊安かれと祈りました。

靖國神社は、明治二年に「招魂社」として明治天皇により創建され、明治十二年に「靖國神社」と改称され現在に至ります。戊辰の役以降、二百四十六万余柱が神霊として斉しく祀られています。

我が国は戦勝国の歴史観に沿った「日本の戦いは侵略でありアジアを始め世界を戦禍に引きずり込んだ悪い国である」「いくら懺悔してもまだまだ足りぬ」というプロパガンダが、今も色濃く国民の脳裏に残されています。

百歩譲っても、戦争は片方が100%悪く、相手が100%善いということは有りません。

我々日本人は、戦勝国の一方的な日本断罪ではなく、善い点も悪い点もバランス良く真実を知る必要があります。

そもそも戦争を開くことになる原因や、その目的は、日本への石油や鉄くずの禁輸反対や、西欧からの植民地である亜細亜の解放であり、人種差別撤廃であったのです。

昭和三十年にインドネシアで開催された第一回アジア・アフリカ会議（バンドン会議）に招かれたとき、日本代表団は各国代表から大歓迎を受け、日本の犠牲の上に今日のアジアがあると述べられたと、代表代理を務めた加瀬俊一元国連大使が証言しています。

先日読んだ門田隆将著『大統領に告ぐ』は、激戦の硫黄島の地下二十メートルで、死を目前にしながら市丸利之助海軍少将が、ルーズベルトに宛てた書であり、それが八十年後に日本で紹介されるとは、奇跡以外にあり得ないと思いました。

英霊達は、日本人は決して恥ずかしい卑怯な人間ではないぞ。と魂の奥底から叫んで下さっているなあと感じずにはいられません。

それもこれも、今を生きる我々日本人に、日本人よ自信と誇りを取り戻せよと。

中小企業の社長の皆さん。我々が為す日々のそれぞれの仕事は、究極日本の為、日本の将来の為にしていると思うのです。

それが、取りも直さず、戦場に斃れ、戦禍に苦しんだ英霊の皆さんに対する、最高の報恩行為ではないでしょうか。

日本人に生まれたことを、今一度感謝し世の為人の為、全力を尽くして参りましょう。

今月のポイント

自虐史観から脱却し

正しい歴史を学び直そう

